

# 英語の X {is / are} just that: Y 構文の意味と機能

## The Semantic and Functional Properties of the “X {is / are} just that: Y” Construction in English

大竹 芳夫  
OTAKE Yoshio

This paper points to the hitherto neglected some semantic and functional aspects of the “X {is / are} just that: Y” construction, such as “Books are just that: books.” We have descriptively discussed the semantic properties of the element shown in the Y slot. We have also tried to clarify the information structure and the discourse function of the “X {is / are} just that: Y” construction. The semantic and functional properties of the the “X {is / are} just that: Y” construction have been borne out by observing naturally occurring data.

キーワード：指示表現，主語＋be 動詞＋“just that”，X is just that: Y 構文，It is just that., They are just that.

Keywords: Referential expressions, Subject + *be* + “just that”, “X is just that: Y” construction, It is just that., They are just that.

### 1. はじめに

英語には、主語＋be 動詞＋“just that”の連鎖をもつ次のような構文が存在する。以下、用例中の下線、二重下線、波線、破線表示は筆者による。

- (1) a. The conversation is lively, the finger sandwiches are delightful, the sweets are just that and the champagne can make you think you are on vacation in the middle of the week.

(*The Washington Post*, April 22, 2004)

(店内での会話は弾み、一口サイズのサンドイッチは楽しいし、そのスイーツはまさに文字通りのものそのものです。シャンパンは週半ばなのにまるで休暇中であるかのようにあなたに思わせてくれることでしょう。)

- b. Speculation is just that: speculation. We should regard it as such.

(R. C. Richardson, *Evolutionary Psychology as Maladapted Psychology*)

(推測は文字通り単なる「推測」に過ぎないのである。私たちは推測をそのような

ものと考えなければならないのである。)

(1a)の下線部“the sweets are just that”は、主語名詞句“the sweets”+be 動詞 are+“just that”の連鎖をもち、「そのスイーツはまさに文字通りのものそのものである」といった意味を表す。また、(1b)の下線部“Speculation is just that: speculation”は、主語名詞句 speculation+be 動詞 is+“just that”の連鎖の直後にコロン符号を介して名詞句 speculation が追記される形式をもち、「推測は文字通り単なる「推測」に過ぎないのである」といった意味を表す。

本構文の主語には、(1a-b)の“the sweets”や speculation のような語彙名詞句のみならず、(2a-e)のように指示表現 it, that, those, they、関係代名詞 which なども生ずる。また、本構文の“just that”の直後に着目すると、コロン(=(1b), (2b))、ダッシュ(=(2a), (2c), (2d))、コンマ(=(2e))などの符号を介して、しばしば語句が後接する。(2a-e)の“just that”の直後には、こうした符号を介して、主語の指示表現や代名詞が指示する前方の語句と同一語句または関連性のある語句が生じている。たとえば、(2a)の“it’s just that”の直後の語句“a dream”は it が指示する前方の“a dream”と同一語句であるし、(2b)の“that is just that”の直後の語句 noise は that が指示する前方の“a lot of noise”という語句の一部である。以下、主語+be 動詞+“just that”の連鎖をもつ部分には下線を、“just that”の直後に生ずる語句には波線を、語彙名詞句が主語の場合にはその語彙名詞句に、指示表現や代名詞が主語の場合にはそれが指示する語句に破線を施す。

(2) a. That’s a dream I harbor, but it’s just that — a dream. (L. Carroll, *Then and Now*)

(それは私が心に抱いている夢です。でも、それは文字通り単なる「夢」に過ぎないのです。)

b. I think there’s a lot of noise around prosthesis but that is just that: noise.

(*The Sydney Morning Herald*, February 27, 2020)

(人工器官には多くの不満の声があると思うが、それは文字通り単なる「不満の声」に過ぎないのだ。)

c. The flowers are not those large, red, leaf-like structures; those are just that — modified leaves called bracts. (*The Sun Chronicle*, January 3, 2017)

(その花はそれほど大きくなく、赤くて、葉に似た構造をしている。それらは文字通りのものに過ぎないのである。つまり、苞葉(ほうよう)という変形した葉に過ぎないのである。)

d. I certainly applaud all these efforts. But they are just that — efforts.

(*The Washington Post*, June 12, 2005)

(私はこうしたすべての努力をたしかに称賛します。でも、それらは文字通り「努力」に過ぎないのです。)

e. Another consideration is that Horatio Alger myth, which is just that, a myth.

(*The Washington Post*, July 5, 1991)

(もう一つ考えるべきことはあのホレイショ・アルジャー神話であるが、それは文字通り単なる「神話」に過ぎないのである。)

本構文は、「～はまさに文字通りのものそのものなのである」、「～は単に文字通りのものに過ぎないのである」といった意味を表し、“just that”の直後に語句が後接する場合には、「～はまさに文字通り『...』なのである」、「～は文字通り単なる『...』に過ぎないのである」といった意味を表す。本研究では、主語+be動詞+“just that”の連鎖をもつ上記のような構文の主語を X、be動詞を{is / are}、“just that”の直後にしばしば補記される語句を Y と便宜的に表記し、X {is / are} just that: Y 構文と呼ぶことにする。

X {is / are} just that: Y 構文は英語の談話で頻用される表現であるにもかかわらず、これまでの研究ではその意味や機能が解明されてはこなかった。本研究では、実際の言語資料を観察しながら、X {is / are} just that: Y 構文の意味的特性と機能的特性を検証することによって、その存在理由を明らかにする。

## 2. X {is / are} just that: Y 構文の構造と基本的意味

本節では X {is / are} just that: Y 構文の構造と基本的意味を確認する。

第一に、X {is / are} just that: Y 構文の be 動詞の形態は単純現在形 is や are とは限らず、過去形(=3a)、完了相(=3b)、進行相(=3c)など多様である。ただし、本研究では、これらの変異形を含めて X {is / are} just that: Y 構文と便宜的に呼ぶことにする。

(3) a. My mom related this story to me and at the time it was just that – a story.

(L. Mashazi, *Running Against The Tide*)

(私のお母さんはこの物語を私に話してくれた。その当時は、文字通り単なる「物語」に過ぎなかったのだ。)

b. “We were prepared for a challenging start to 2021 and it has been just that,” he said.

(*The New York Times*, January 14, 2021)

(「私たちは 2021 年のたいへんな出だしの覚悟ができていました。このことは今日もただその通りで、何ら変わらないのです。」と彼は言った。)

c. When I’m not working I take huge walks and realise that I’m writing very little in my notebooks these days. It’s also soothing to be with people who know nothing about me. This

is most unexpected but New York is being just that – soothing.

(S. Phillips, *Private Faces and Public Places*)

(私は働いていないとき、ものすごく歩き、最近では手帳に書き込みをほとんどしていないことに気づかされます。また、私のことを何も知らない人たちと過ごすことも心を落ち着かせてくれるのです。このことは全く予想外ですが、ニューヨークはまさに文字通り「心を落ち着かせて」くれているのです。)

第二に、X {is / are} just that: Y 構文には、推量を表す助動詞や“seem to”が生ずることもできる。(4a-c)では would、can、may が、(4d)では“seem to”が生じている。

(4) a. We could speculate, Donald, but it would be just that—speculation. (J. Axler, *Cosmic Rift*)

(ドナルド、我々は推測はできるであろうが、それは文字通り「推測」の域を出ないであろう。)

b. While being a super Swing who sings every note perfectly is a good goal, it can be just that—a goal. (J. A. Eyer, L. F. Smith, *Broadway Swings*)

(すべての音符を完璧に歌い上げるすごいスウィングになることはよい目標ではあるが、それは文字通り単なる「目標」に過ぎないにちがいないのだ。)

c. There is speculation that the daytime roosts may have some function in communicating where food sources are located, but it may be just that - speculation.

(J. L. Wassink, *Watchable Birds of the Black Hills, Badlands, and Northern Great Plains*)

(日中のねぐらは食料源がどこにあるのかを伝える際にある種の機能を果たしているのかもしれないという推測がある。しかし、それは文字通り「推測」の域を出ない可能性があるのだ。)

d. The myth of aging seems to be just that, a myth.

(E. M. O'Reilly, *Decoding the Cultural Stereotypes About Aging*)

(老化の神話は、文字通り単なる「神話」に過ぎないように思われる。)

第三に、X {is / are} just that: Y 構文は just と共起するところに特徴がある。Lee (1991)が論ずるように、just には(5a)のような“before midnight”を指定する(specificatory)の用法と、命題内容の重要性を下げて控えめに伝える(depreciately)の用法がある。この後者の用法の just には、話し手が聞き手と情報交換をする際に対人関係を良好に保つための緩衝機能があり、Otake (2002), 大竹 (2009; 2016; 2018)で論じた(6)のような It is that 節構文においてもその機能を発揮する。

- (5) a. It happened *just* before midnight. (Lee (1991:43))  
 (それはまさに午前零時の直前に起きました。)
- b. I *just* don't like it. (*ibid.*)  
 (私はそれがただ好きじゃないだけなのです。)
- (6) “Are you crying?” “I guess.” “What’s the matter?” “It’s just that ...” “What?” He offers me his T-shirt and I take it and wipe my eyes. “It’s just that I never thought I’d see you again.”  
 (大竹 (2018:170): B. Gowdy, *The Romantic*)  
 (「泣いているの?」「そうかも。」「どうしたんだい?」「ただ、...」「ただ何だい?」彼が差し出す T シャツを受け取り、涙を拭った。「ただ、あなたにまた会えるとは思ってもみなかったの。」)

本研究の考察対象である X {is / are} *just that*: Y 構文に生ずる *just* にも、「まさに...」(=(7a))、と「単なる...に過ぎない」(=(7b))の意味を表す2つの用法が確認できる。

- (7) a. Beacon Hill is just that—a hill area. (C. D. Miller, *Harry Potter Places*)  
 (ビーコンヒルはまさにその名の通り「丘陵地域」なのである。)
- b. I can assure you that these rumors of campaigns are just that—rumors.  
 (A. Jacobs, *Mage Rising*)  
 (軍事行動のこうしたうわさは文字通り単なる「うわさ」に過ぎないことを保証する。)

実際の用例を観察すると、*just* の位置に、*merely*(=(8a))、*only*(=(8b))、*“all just”*(=(8c))が生ずる事例も確認できる。これらも *just* と類似した意味と機能を有すると仮定される。本研究では詳細な異同は論ぜず、*just* のみならず *merely*、*only*、*“all just”* を伴う構文も便宜的に X {is / are} *just that*: Y 構文と呼ぶことにする。

- (8) a. The scientist has an ignorance called “theory.” There’s nothing to substantiate it. It’s merely that. It’s faith in the unknown. It’s untested fact. (J. M. Elliot, *Science Fiction Voices 2*)  
 (科学者には「理論」という無知がある。それを立証するものは何もないのである。それはただ文字通りのものに過ぎないのである。未知なるものへの信念なのである。それは立証されていない事実なのである。)
- b. “I know we’re all stirred up about this rumor.,” said the teacher. “But right now it’s only that—a rumor. Rest assured that I will learn the truth and let you know.”  
 (B. Hale, *Fuzzy Fights Back*)

(「私たちは皆このうわさに掻き回されていますね。」と先生は言った。「でも現時点ではそれは文字通り単なる「うわさ」に過ぎません。真相がわかったら皆さんに知らせるので、安心してください。」)

- c. Satan tries to lie to us, tries to harden our hearts, tries to tell us that there is irreparable heart damage - but it is all just that, a lie.

(R. J. Burton, *Will the Real Christians Please Stand Up!*)

(サタンは我々に嘘をつこうとし、我々の心をかたくなにさせようとし、心に回復不可能な障害があると我々に教えようとしている。しかし、それはあくまで文字通り「嘘」なのだ。)

第四に、X {is / are} just that: Y 構文には、様々な構文環境に生ずる異形が確認できる。たとえば、(9a-b)の動詞 label と consider は目的語+補語の形式を従え、それぞれ「<目的語>を<補語>と呼ぶ」、「<目的語>を<補語>と考える」という意味を表す。(9a-b)は目的語に it が、補語に“just that”が生じており、X {is / are} just that: Y 構文の異形である。

- (9) a. When a myth no longer serves, the first move is usually to label it just that, a myth.

(G. Paris, *Wisdom of the Psyche*)

(神話がもはや機能しなくなると、通例、最初にすることはそれを文字通り単に「神話」と呼ぶことである。)

- b. If you're thinking of investing in a cedar chest, consider it just that -- an investment.

(*The Baltimore Sun*, May 21, 1992)

(もしあなたがシダー材のたんすを買うことを検討しているのならば、それはまさに文字通り「投資」なのだと考えてください。)

また、(10a)では「使役動詞 let+目的語+動詞の原形」の形式に“let them be just that”が生じ、Y の位置で先行文脈中の“in control” (主導権を握った) が再言されている。また、(10b)では“turn out to”に続いて“be just that”が生じ、Y の位置で“a rumor” (うわさ) が再言されている。

- (10) a. Many husbands have wives that like to be in control, and guess what, many husbands will let them be just that, in control.

(J. Pickard, *Making Your House a Home*)

(多くの夫には主導権を握っているのが好きな妻がいます。そして想像できるでしょうか。多くの夫は妻にまさに「主導権を握った」ままにさせているのです。)

- b. In San Antonio, the rumor about Beto O'Rourke turns out to be just that -- a rumor.

(*The Guardian*, October 31, 2018)

(サンアントニオのベト・オルークのうわさは文字通り単なる「うわさ」に過ぎなかったのである。)

さらに、X {is / are} just that: Y 構文が動名詞として用いられる異形もある。たとえば、(11a)では it は動名詞の意味上の主語となっている。この用例でも、Y による補記、再言がしばしば確認される。(11a-b)では、前置詞の about と for それぞれの目的語に X {is / are} just that: Y 構文の動名詞形“it being just that”、“being just that”が生じている。

(11) a. Also, as astute readers will remember, I reported the rumor in a column earlier this year, though I seem to recall saying something about it being just that - a rumor.

(*Deseret News*, June 14, 1998)

(また、鋭い読者ならおぼえているように、今年すでにコラムでそのうわさについて私は記事を書きました。それが文字通り単なる「うわさ」であったかのようなことを書いたように思います。)

b. The satisfying finale was notable for being just that: satisfying.

(*The Washington Post*, June 1, 2021)

(満足感を与えるフィナーレはまさに文字通り「満足感を与える」ものであったので見事であった。)

次は、X {is / are} just that: Y 構文が分詞節に用いられている用例である。次例では、with + 目的語 + 現在分詞の形式をもつ分詞節に、X {is / are} just that: Y 構文が生じ、“With the Treasure Valley being just that, a valley” (トレジャーバレーはまさにその名の通り「盆地」であり) と、主節に対する付帯的状況が伝えられている。

(12) With the Treasure Valley being just that, a valley, cold air is susceptible to sinking down into the valley and being trapped by warm air above — think about water and oil separating from one another in a jar.

(*The Idaho Statesman*, January 14, 2022)

(トレジャーバレーはまさにその名の通り「盆地」であり、寒気が盆地に沈みやすく、上空の暖気によって閉じ込められやすいのです。ビンの中の水と油が互いに分離するのを考えてみてください。)

(9)-(12)のような構文環境に生ずる X {is / are} just that: Y 構文も本研究で明らかにされる特性を基本的には有するものと仮定されるが、ここでは異形の構文の存在を指摘することど

め、詳しい考察は稿を改めることにしたい。

次に、X {is / are} just that: Y 構文の that の特性について考えよう。X {is / are} just that: Y 構文の指示表現 that は、先行する文脈中の事物を指示するのではなく、先行する表現そのものを指示する点に注意する必要がある。X {is / are} just that: Y 構文の指示表現 that が先行する表現自体を指し示すことは、次のような事実から確認できる。

(13) To many students, books are just {that / \*those}: books.

(多くの学生にとっては、本は単に文字通り「本」なのである。)

(13)は主語が名詞の複数形 books であるにも関わらず、指示表現には複数形を指示する those ではなく単数形を指示する that が選択されることを示している。つまり、(13)の that は books (本) という実体を指示しているのではなく、books という表現自体、「本」という表現そのものを指し示し、「books (本)はその語義通り“books” (『本』) という存在物に過ぎず、そのことばの範疇を超える意味はない」ということが積極的に表現されている。(13)の X {is / are} just that: Y 構文が実際に発話されている次の(14)の談話環境を観察しよう。

(14) To many students, books are just that: books—animate objects with information in them. To professors, on the other hand, books are creations, things made by real people.

(M. C. Alewine, M. Canada, *Introduction to Information Literacy for Students*)

(多くの学生にとっては、本は語義通り単なる「本」に過ぎないのであり、そこに情報が書かれている無生物に過ぎないのである。一方、教授にとっては、創造の産物、つまり実際の人たちによってうみ出された産物なのである。)

(14)の話し手は“To many students, books are just that” (多くの学生にとっては、本は語義通りのものに過ぎない) と述べた直後に、that が指し示す books という表現の意味を“books—animate objects with information in them” (「本」、つまりそこに情報が書かれている無生物) と補記している。(14)の話し手は続いて、“To professors, on the other hand, books are creations, things made by real people” (一方、教授にとっては、創造の産物、つまり実際の人たちによって作られた産物なのである) と述べて、学生とは違って教授にとっては、books は「情報が書かれている無生物」というその語義通りの存在を超えて、「実際の人たちによってうみ出された産物」なのであると主張している。ここで、“books are just that: books” とは異なり、that を介さない“books are just books”のような形式の構文を見よう。



(15) But books are just books, and fire can burn them, fire can blot them out.

(E. E. Wiechert, *The Earth is Our Heritage*)

(しかし、本は本に過ぎない。火は本を燃やし、その存在を完全に消し去ることができるのである。)

(15)は(14)とは異なり、*that* を介さずに“books are just books” (本は本に過ぎない) と発話されている。次いで、“and fire can burn them, fire can blot them out” (火は本を燃やし、その存在を完全に消し去ることができるのである) と述べられていることから、“books are just books”は語義通りの意味での *books* ではなく、*books* の物理的存在物としての実体が注目されていることがわかる。

X {is/are} just that: Y 構文の *that* が先行する表現そのものを指示することは、次のような事例からも裏付けられる。(16a)では、“in the literal meaning of the phrase” (その語句の文字通りの意味において) と補足されていることから、*that* は“still life”という表現自体を指示していることは明らかである。また、(16b)では *literally* (文字通り) という副詞と共起していることから、*that* は先行する“quiet sleep”という表現自体を指し示していることがわかる。

(16) a. Not still life in the traditional sense, they are just that in the literal meaning of the phrase: inanimate objects that do not move. (C. Armstrong, *Cézanne in the Studio*)

(それら (=セザンヌの絵) は従来の意味での静物画ではない。それらはその語句の意味の通り、まさに「動かない無生物」なのである。)

b. Quiet sleep is literally just that: quiet sleep. Super boring. The baby just sits there in her carrier ... sleeping. No moving, just rhythmic breathing.

(W. C. Winter, M.D., *The Rested Child*)

(静睡眠はまさに文字通り「静かな睡眠」なのである。とてもつまらない。赤ちゃんは抱っこひもにただ座って、眠っているのである。少しも動かず、ただ周期的な呼吸をしているだけなのである。)

さて、次に X {is/are} just that: Y 構文で「文字通りのもの」、「語義通りのもの」、「その名の通りのもの」として取り立てられる要素の特性について考察する。たとえば、(17a-b)が示すように、“private schools” (私立学校) や “public school” (公立学校) という名詞句は、第1要素の形容詞が「文字通りのもの」として取り立てられる事例は確認されるが、第2要素の名詞 *schools* が「文字通りのもの」として取り立てられる事例は手元の資料にはひとつもない。

(17) a. Private schools are just that, private.

(K. Werner, *The Savvy Woman's Guide to Owning a Home*)

(私立学校は文字通りまさに「私立」なのである。)

- b. Public schools are just that—public—and are by law required to “take all comers”—black, white, rich, poor, kids with “special needs,” immigrant, non-English speaking—however one defines the many differences between human beings.

(D. Gabbard, K. R. Kesson, E. W. Ross, *Defending Public Schools*)

(公立学校は文字通りまさに「公立」なのである。たとえば、黒人、白人、裕福な世帯、貧しい世帯、特別支援が必要な児童、移民、非英語話者など、たとえ人間にたくさんの違いがあると規定されるとしても、「希望者全員を受け入れる」ことが法律によって義務付けられているのである。)

しかし、次の(18a)と(18b)を比較しよう。(18a)も(18b)も主語の“negative thoughts”（否定的な思考）が「文字通りのもの」に過ぎないことが述べられている。しかしながら、“negative thoughts”という名詞句の第1要素の形容詞 *negative* と第2要素の名詞 *thoughts* のどちらの要素が「文字通りのもの」として取り立てられているかが異なる点に注意されたい。

(18) a. “Negative thoughts are just that, negative.” (P. Gussin, *And Then There Was One*)

(「否定的な思考は文字通り単に『否定的』に過ぎないのよ。)

- b. Only our belief in negative thoughts makes them appear to be true to us; at their very core, negative thoughts are just that—thoughts. (R. Byrne, *The Secret*)

(我々は否定的な思考を信じることでその否定的な思考が真実であるように思えてしまう。事の核心は、否定的な思考は文字通り単に「思考」に過ぎないのである。)

(18a)の“Negative thoughts are just that, negative”（否定的な思考は文字通り単に「否定的」に過ぎないのである）では、“negative thoughts”の第1要素 *negative* が文末で再言されていることから、*negative* が「文字通りのもの」として取り立てられている。一方、(18b)の“negative thoughts are just that—thoughts”（否定的な思考は文字通り単に「思考」に過ぎないのである）では、“negative thoughts”の第2要素 *thoughts* が文末で再言されていることから、*thoughts* が「文字通りのもの」として取り立てられている。この事実から明らかなように、話し手は「文字通りのもの」として取り立てる要素が潜在的にあいまいであると判断する

場合には、X {is / are} just that: Y 構文の文末の Y の位置に取り立てる要素を再言することであいまいさを解消できる。類例を観察しよう。各例で「文字通りのもの」として取り立てられている要素は、X {is / are} just that: Y 構文の文末の Y の位置で再言されている要素である。具体的には、(19a)の“baseball teams”は第2要素の teams が、(19b)の“special teams”は第1要素の special が、それぞれ「文字通りのもの」として取り立てられている。

- (19) a. Baseball teams are just that—teams. (K. K. Campbell et al. *The Rhetorical Act*)  
 (野球チームはまさに文字通り「チーム」なのだ。)
- b. Special teams are just that: special. (E. Louttit, *More Indian Ernies*)  
 (特別チームは文字通り単に「特別」に過ぎないのである。)

さて、ここまで検証してきた英語の X {is / are} just that: Y 構文に対応する日本語の構文が用いられている用例として、(20)を挙げることができる。

- (20) a. しかし、この「二矢伝説」は真実なのか。あるいは、二矢を神格化するための、文字通り「伝説」にすぎないのだろうか。  
 (沢木耕太郎 『1960 沢木耕太郎ノンフィクション:7』)
- b. ここで言う「一歩先」というのは、まさに言葉通りの「一歩」先のことです。  
 (白鳥美子 『大工の棟梁に学ぶプロジェクトマネジメント』)
- c. エムピリカルつまり経験的な事柄とは、その語義どおりに、「試みる」ことのなかでえられる智慧である。  
 (西部邁 『幻像の保守へ』)

X {is / are} just that: Y 構文とは異なり、日本語は文末に、コロンなどの符号を介して要素 Y が配置されることは基本的にはない。しかし、カッコ「」の符号が活用されて、カッコ内の要素が「文字通りのもの」として取り立てられる場合がある。こうした日英語の同種の意味を表す構文の諸特性の比較対照は稿を改めることにする。

本節では、X {is / are} just that: Y 構文の構造と基本的意味について実際の用例を観察しながら考察した。X {is / are} just that: Y 構文の Y には「文字通りのもの」、「語義通りのもの」、「その名の通りのもの」として取り立てられる要素が生ずるが、先行文脈中の語句と同一の語句が現れるとは限らない。次節では、X {is / are} just that: Y 構文の要素 Y の特性を解明する。

### 3. X {is / are} just that: Y 構文の Y の特性

X {is / are} just that: Y 構文は、「X はまさに文字通り Y なのである」、「X は文字通り単なる Y に過ぎないのである」といった意味を表す。話し手は要素 Y を文末の位置、つまり聞き手の記憶に残りやすい位置に配置することで、Y が担う情報を聞き手の記憶に刻み込むと考えられる。本節では“X {is / are} just that”の直後にしばしば生ずる要素 Y に着目し、その特性を検証する。

第一に、X {is / are} just that: Y 構文の Y に、先行文脈中の語句と同一語句が再言される場合がある。(21a-b)では先行文脈中の名詞句と同一の名詞句 *excuses* (言い訳) と *lies* (嘘) がそれぞれ Y に生じている。

(21) a. Excuses are just that – excuses. (M. Luck, *A Lesson Plan for Teachers (New and Old!)*)

(言い訳は文字通り単なる「言い訳」に過ぎないのである。)

b. “I apologize for my language, but lies are just that, lies.”

(*The Chicago Tribune*, November 1, 2012)

(「ことば遣いが悪くてごめんなさい。でも嘘は文字通り単なる『嘘』に過ぎないんです。)

X {is / are} just that: Y 構文の Y に生ずる名詞句は、定性のない不定名詞句であることに注意する必要がある。次例を考えよう。

(22) a. “The Big Lie is just that — a big lie” Biden said of the movement to deny the 2020 results.

(*Arizona Mirror*, July 13, 2021)

(「(トランプ前大統領が主張する) 例の大嘘というのは、まさに文字通り単なる「大嘘」に過ぎないのだ。」とバイデン大統領は 2020 年の大統領選の結果を否定しようとする運動について話した。)

b. In the fairy tale, the princess kisses a frog and it turns into a prince, but it's just that—a fairy tale.

(C. Eastham, *Guys Like Girls Who ...* )

(おとぎ話では、お姫様がカエルにキスをするとカエルは王子様になる。しかし、それは文字通りただの「おとぎ話」なのだ。)

(22a)では文頭の“The Big Lie” (例の大嘘) という定冠詞の付いた定名詞句がそのまま文末の Y で再言されているのではなく、不定名詞句“a big lie” (大嘘) の形で提示されている。また、(22b)でも先行文脈中の定名詞句“the fairy tale”が不定名詞句“a fairy tale”の形で現れている。これは、X {is / are} just that: Y 構文の Y が先行する語句の「文字通りのもの」とし

ての側面を取り立てるのであって、特定の事物を表現するのではないからである。

次に、X {is / are} just that: Y 構文の Y に、再言される語彙範疇は名詞ばかりではない。次例では、Y に先行文脈中の形容詞と同一の形容詞が再言されている、具体的には、(23a-b)では先行文脈中の形容詞と同一の形容詞 big、flat、circumstantial がそれぞれ Y に生じている。

- (23) a. The second highest peak in the Southern District of Shenandoah National Park, Big Flat Mountain is just that: big and flat. (J. Frye, *Moon Blue Ridge Parkway Road Trip*)  
 (シェナンドー国立公園の南部区域の2番目に高い山であるビッグ・フラットマウンテンはまさにその名の通り「大きくて頂上付近が平らな台形」なのである。)
- b. As it is, you've got a lot of circumstantial evidence to show that this is the Blazer that Morris bought gas for when your witness says he appeared to be traveling with the Mercedes, but it's all just that—circumstantial. (R. Gauge, *Unresolved Issues*)  
 (実のところ、この車が、モリスが入れるためのガソリンを購入したブレザーで、目撃者の証言では彼はメルセデスで移動していたようだったということを示す状況証拠があなたにはたくさんあるんだ。でも、それはあくまで「状況」に過ぎないんだ。)

このように、X {is / are} just that: Y 構文の Y には先行文脈中の名詞や形容詞が再度提示される。興味深いことに、先行文脈中の語句が名詞であっても、professional のような名詞と形容詞が同形の語彙の場合、X {is / are} just that: Y 構文の Y には形容詞が生ずることもできる。(24)の“construction professionals” (建築専門家) も(25)の“healthcare professionals” (健康管理専門職) も professionals という名詞が使われているが、文末の Y には(24)ではそのまま同一の名詞形 professionals (専門家) が生じている一方、(25)では形容詞の professional (専門職の) が現れている。

- (24) Construction professionals are just that: professionals.  
 (Lansing State Journal, January 15, 2017)  
 (建築専門家はまさに文字通り「専門家」なのである。)
- (25) Healthcare professionals are just that: professional.  
 (E. Haxby, D. Hunter, S. Jaggat, *An Introduction to Clinical Governance and Patient Safety*)  
 (健康管理専門職はまさに文字通り「専門職の」なのである。)

また、X {is / are} just that: Y 構文の Y で、先行文脈中の前置詞句と同一の前置詞句が再

言される場合もある。(26)では先行文脈中の前置詞句と同一の前置詞句“behind the scenes” (舞台裏で) が Y に生じている。

- (26) You hear about how great of a guy he is behind the scenes, but we don't really get to see it because it's just that - behind the scenes. (*Golf Digest*, June 15, 2021)  
(舞台裏で彼がどんなに立派な人物か耳にしているでしょうが、まさに「舞台裏で」の話なので、私たちは実のところわからないのです。)

さらに、先行文脈中の副詞と同一の副詞が X {is / are} just that: Y 構文の Y に生ずる事例も確認できる。(27)では先行文脈中の副詞と同一の副詞 up が Y に生じている。

- (27) The way up the mountain is just that—up!  
(D. Dunlap, *Day Hiking in the Western Maine Mountains*)  
(その山に登る道はまさに文字通り「上に」なのだ。)

第二に、X {is / are} just that: Y 構文の Y に、先行文脈中の語句と同一の語彙範疇ではないが、その派生語が生ずる場合がある。(28a-b)では先行文脈中の動詞 speculate と talk の派生名詞 speculation と talk がそれぞれ Y に生じている。

- (28) a. As a scientist, I am asked to speculate as to the meaning of a particular discovery, but it's just that - speculation. (United States. Congress. Senate. Committee on Health, Education, Labor, and Pensions, *Can Congress Help Fulfill the Promise of Stem Cell Research?*)  
(科学者として、ある発見のもつ意味に関して推測するように依頼される。しかし、それは文字通り単なる「推測」に過ぎないのである。)
- b. Regulators across emerging Asia often talk about their need to create financial hubs, but mostly it is just that: talk. (*Asiamoney*, January 13, 2020)  
(新興アジア全域の規制管たちは金融の中心地を作る必要についてうわさ話をするが、多くは文字通り単なる「うわさ話」に過ぎないのだ。)

次に示す(29)では先行文脈中の名詞 risks (リスク) の派生形である形容詞 risky (危険な) が Y に生じている。

- (29) I think we all would agree if you look at what's going on in the markets today, there're definitely risks in many of the areas to which the banks would like to gain access. But that's the way it

is. Whenever you're in a trading business, it is just that—risky.

(United States. Congress. Senate. Committee on Banking, Housing, and Urban Affairs, *Status of U.S. the Financial System*)

(今日の市場で何が起きているのかに目を向けると銀行が権利を得たいと考える地域の多くにリスクが確実に存在するということには皆が同意すると思う。しかし、それが現実なのである。あなたが貿易業務のどこにいても、文字通りまさに「危険な」だけなのだ。)

また、(30)では先行文脈中の形容詞 **formal** (正式な) の派生形である名詞 **formality** (形式的手続き) が X {is / are} just that: Y 構文の Y に生じている。

(30) For Hunter and the other soldiers of the division's 2nd Battalion, 7th Infantry Regiment, many of whom are on their third or fourth tours, the formal end of combat operations in Iraq on Tuesday is just that: a formality. (Los Angeles Times, August 30, 2010)

(ハンターと第7歩兵師団、第2大隊の他の兵隊の多くは3度目あるいは4度目の派遣であるが、彼らにとって、火曜日のイラクの戦闘活動の正式な終結は単にそれだけに過ぎないのだ。つまり、文字通り単なる「形式的手続き」に過ぎないのだ。)

第三に、X {is / are} just that: Y 構文の Y に、先行文脈中の語句の類義表現が生ずる場合がある。(31a)では先行文脈中の **myth** (神話) と同一の語句 **myth** に加えて、**legend** (言い伝え) という類義表現が Y に提示されている。(31b)では先行文脈中の語句 **situational** (状況性の) の類義表現 **environmental** (環境因性の) が、(31c)では先行文脈中の語句 **appearances** (幻影) の類義表現 **illusion** (まぼろし) が Y に用いられている。

(31) a. “But what can we do? Secession? Not a chance, Jack. That silly myth that we alone can secede? It's just that, a myth, a legend.” (T. Kratman, *A State of Disobedience*)

(「我々に何ができるのか？脱退か？絶対にありえない、ジャック。我々だけが合法的に脱退することができるというあのくだらない神話か？それは文字通り「神話」、つまり言い伝えに過ぎないのだ。)」

b. “When we experience loss, it's normal to have situational depression. But that is just that; it's environmental. Trust that you will feel better spontaneously, once you have processed your grief,” says Rountree. (The Week, December 22, 2016)

(「私たちは喪失体験をすると、状況性うつ病になるのが普通です。しかし、それはその病名の通り単に「環境因性」に過ぎないのです。ひとたび悲嘆の原因

を処理すれば、自然に回復すると信じてください。」とラウントリーは言う。)

c. However such appearances are just that, an illusion.

(M. Sinclair, Y. Wolf, *The Bergsonian Mind*)

(しかしながら、そのような幻影は単なる「まぼろし」に過ぎないのである。)

次例においては、先行文脈中の語句を類義表現で換言して Y で示すにとどまらず、X {is / are} just that: Y 構文の話し手は、Y で説明を補足した類義表現を提示している。(32a)では先行文脈中の語句 story (話) が、Y でその類義表現 legend (言い伝え) で換言された後、more myth than reality (現実ではない神話) という表現でさらに説明されている。(32b)では先行文脈中の“a theory of philosophy or speculation” (哲学思想や推測) が、Y で“a merely plausible inference, an unproven hypothesis, or a ‘best guess’” (単なる発見的推論、立証的仮説、『最も有力な推測』) という表現で別の角度から言い換えられて説明されている。

(32) a. Now, a man who fled Cuba with “El Duque” says at least part of the story is just that: a legend--more myth than reality. (The Washington Post, December 6, 1998)

(さて、『エル・ドューケ』でキューバから逃げた男は、その話の少なくとも一部は単に「言い伝え」つまり「現実ではない神話」なのであると言う。)

b. A theory of philosophy or speculation is just that: a merely plausible inference, an unproven hypothesis, or a ‘best guess’. (R. Carrier, *Sense and Goodness Without God*)

(哲学思想や推測はまさに文字通りのものに過ぎない。つまり、単なる発見的推論、立証的仮説、『最も有力な推測』に過ぎないのである。)

これは話し手が、当該語句と同一の語彙やその派生形をそのまま再言するのではなく、類義表現で換言したり、別の角度から説明することによって、当該語句の文字上の意味の理解を助けているものと考えられる。

さて、X {is / are} just that: Y 構文の Y に、先行文脈中の語句と同一語句が再言された後に、正確な情報や実情が披瀝される情報が追述、補記される場合がある。(33a)では“it is just that”の直後に talk (作り話) という、先行文脈中の語句と同一語句が再言され、次いで“to be more accurate—propaganda” (もっと正確に言えば「大衆操作のための嘘」) という情報が追記されている。つまり、(33a)の構文は、「この作り話は文字通り単なる『作り話』であるどころか、『大衆操作のための嘘』に過ぎないのだ」といった意味を伝えており、話し手はより正確な情報を伝える表現に言い換えている。(33b)では X {is / are} just that: Y 構文の Y で“an opinion and to be honest based on very little personal experience” (単なる「意見」に過ぎず、正直に言えば、個人的な経験にはほとんど基づいてはいない「意見」) と述べ



られており、話し手が“an opinion”の意味を厳密に定義していることが確認できる。

- (33) a. All of this talk sounds good, but in my opinion it is just that—talk, or to be more accurate—propaganda.

(T. Sass, *If You Can't Be Better Than an N-Word, Then Who Can You Be Better Than?*)

(この作り話はすべて立派に聞こえる。しかし、私の考えでは、それは文字通り単なる「作り話」に過ぎない。いやもっと正確に言えば「大衆操作のための嘘」に過ぎないのだ。)

- b. Like everyone I have an opinion and it is just that – an opinion and to be honest based on very little personal experience. (M. Schoby, *Do-It-Yourself Dream Hunts*)

(皆さんと同じように私にも意見がある。それは文字通り単なる「意見」に過ぎず、正直に言えば、個人的な経験にはほとんど基づいてはいない「意見」なのだ。)

X {is/are} just that: Y 構文の Y に生ずるのは、先行文脈中の語句と同一の語句、類義表現、派生形だけではない。(34)の X {is / are} just that: Y 構文では、先行文脈中の語句“a long winter” (長い冬) の上位概念を表す語句“a season” (季節の一つ) が Y に現れている。Y の “a season” が提示された後には、その「季節」が談話の話題となって“and seasons always change” (季節はいつも変化するものなのだ) と述べられて、話が展開している。

- (34) This may be a long winter, but it is just that—a season—and seasons always change.

(B. Stulberg, *The Practice of Groundedness*)

(これは長い冬なのかもしれない。しかし、それは「季節の一つ」に過ぎないのだ。季節はいつも変化するものなのだ。)

(35)では、話し手が“Identical twins are just that: identical” (一卵性双生児はまさに文字通り「一卵性」なのである) と述べた後に、“identical twins” (一卵性双生児) という概念における identical の意味を“genetically identical as well as facially and physically identical” (顔や体と同じであるだけでなく遺伝学的にも同じ) と明記して、正確な情報を提供することで聞き手の理解を助けている。

- (35) Identical twins are just that: identical—genetically identical as well as facially and physically identical. (S. K. Tremayne, *The Ice Twins*)

(一卵性双生児はまさに文字通り「一卵性」、つまり、顔や体と同じであるだけでなく遺伝学的にも同じなのである。)

次の(36)もまた、X {is / are} just that: Y 構文の Y 位置で豊富な情報量の内容が伝えられている。話し手は聞き手の理解に負担がかからない形式で情報を伝達する工夫を施している。まず、話し手は“This book is just that - a travelling companion”（この本はまさにその「旅の同行者」なのです）と Y の表現の先頭で先行文脈中の語句と同一語句の“a travelling companion”を提示し、次いで to 句以下で“a travelling companion”の特徴を披瀝する情報を聞き手の記憶に残りやすい文末位置に配す工夫をしていることが確認できる。

(36) If you've stood on top of mountains, literally or figuratively, or if you've just plodded along in the valleys, wouldn't it be nice sometimes to just have a travelling companion? This book is just that - a travelling companion to help you see through the author's eyes and hear through his ears the wonder of the Journey. (C. Tingle, *A Traveller's Guide to The Journey*)

（もし、あなたが文字通りまたは比喩的にも山の頂上に立ったときや谷間に沿って歩いたときに、旅の同行者がときにはいればよいのと思いませんか？この本はまさにその「旅の同行者」なのです。この本は「著者の目や耳を通して旅の驚くべきことをあなたが見聞きするお手伝いをする、旅の同行本」なのです。）

(37)では、先行文脈中の“biological clock”（体内時計）を受けて、豊富な情報量を担う Y を文末に伴って X {is / are} just that: Y 構文が発話されている。具体的には、“biological clock”は「まさにその名の通りのもの」であると伝えられた後、Y で“a perpetual, precisely accurate, never run - down clock that continually records a variety of events that you take for granted every waking hour you live”（朝起きてから夜寝るまであなたが当たり前に行う様々な出来事を絶えず記録し続ける、知覚による、極めて正確で、決して狂わない時計）と追述されており、“biological clock”という名前の由来やその機能についての聞き手の理解を容易にしている。

(37) It's your biological clock – so called because it's just that, a perpetual, precisely accurate, never run - down clock that continually records a variety of events that you take for granted every waking hour you live. (J. F. Hurdle, *The Biofeedback Diet*)

（それはあなたの体内時計です。そのように呼ばれる理由はそれがまさにその名の通りのものだからです。つまり、朝起きてから夜寝るまであなたが当たり前に行う様々な出来事を絶えず記録し続ける、知覚による、極めて正確で、決して狂わない時計なのです。）

次例においても、豊かな情報量をもつ内容が X {is / are} just that: Y 構文の Y に追記されて

いる。Yに“an opinion”（所見）が生じ、その直後に“an opinion”を換言する表現“an educated guess ...”（...という知識や経験に裏付けられた推測）が続き、医師の所見に対する話し手の見解が詳述されている。

- (38) This is not to say that doctors aren't often correct when they give a patient bad news or that the patient isn't entitled to the doctor's opinion. But if you are given such a diagnosis, keep in mind that it is just that: an opinion, an educated guess based on statistics and the doctor's training and experience, which hopefully are vast but which may not take into consideration all the factors, including that of the patient's will to get better.

(D. Blake, *The Goddess Is in the Details*)

（このことは、医師が患者に悪い知らせを伝える場合や、患者が医師の所見をもらう権利がない場合、医師が正しくないことがよくあると言うものではありません。しかし、もしあなたがそのような診断書をもらうとしても、それは文字通り単なる「所見」に過ぎないのだということを心に留めておいてください。つまり、それは統計やその医師の訓練と経験に基づく、知識や経験に裏付けられた推測に過ぎず、幅広いものであればよいですが、患者の回復しようとする要因も含めてすべての要因を必ずしも考慮に入れていない可能性があるのです。）

また、X {is/are} just that: Y 構文の Y に先行文脈中の語句と同一語句や関連語句を提示し、次いでその語句を説明する表現を追記する形で、しばしば豊かな情報量をもつ内容が生じ、続く談話で話題が展開する契機になる事例も観察される。(37)では先行文脈中の語彙“leaf-like structures”（葉に似た構造）を、X {is/are} just that: Y 構文で“those are just that”（それらは文字通りのもの（=葉）に過ぎないである）と述べ、その直後の Y 位置で“modified leaves called”（苞葉（ほうよう）という変形した葉）に過ぎないと専門的立場から話し手が bracts（苞葉）という専門用語を談話に導入している。その後の談話では“the bracts”を主題にして情報が展開している。

- (39) The flowers are not those large, red, leaf-like structures; those are just that — modified leaves called bracts. The bracts are for attracting pollinating insects.

(*The Sun Chronicle*, January 3, 2017) (=2c)を再掲)

（その花はそれほど大きくなく、赤くて、葉に似た構造をしている。それらは文字通りのものに過ぎないのである。つまり、苞葉（ほうよう）という変形した葉に過ぎないのである。苞葉は花粉媒介昆虫を惹き付けるためにあるのである。）

次に示す(40)においても、X {is / are} just that: Y 構文の Y の発話を契機として、談話が展開している。具体的には、X の“a particle beam”（粒子ビーム）が Y で“a beam of particles”（粒子のビーム）という形で提示されている。Y の “a beam of particles”は particles が表現末に配置されており、その particles が後続文の主題となって引き継がれ、内容が展開してゆく談話構造となっている。

- (40) But a particle beam is literally just that, a beam of particles. You charge them and accelerate them at a target. They are literally smaller than an atom, but you are accelerating billions of them at a significant portion of the speed of light. (D. Pendleton, *Skysniper*)

(しかし、粒子ビームはまさに文字通り「粒子のビーム」なのです。あなたは粒子を荷電して、標的に向けて加速するのです。粒子は原子より文字通りに小さいですが、亜光速で数十億もの粒子を加速しているのです。)

本節では X {is / are} just that: Y 構文の要素 Y の意味特性と談話における振る舞いを明らかにした。

#### 4. 談話機能

第2節と第3節で考察してきたように、X {is / are} just that: Y 構文は、「X はまさに文字通り Y なのである」、「X は文字通り単なる Y に過ぎないのである」といった意味を表し、X はその字句の通りの意味解釈しかもたないことを話し手が聞き手に断言する場合に用いられる。

そのため、X {is / are} just that: Y 構文は、特定の専門分野に精通した立場の話し手が、聞き手に「X はまさに文字通り Y なのである」、「X は文字通り単なる Y に過ぎないのである」と教示するような場面でしばしば発話される。たとえば、(41)では臨床心理の専門家が自らの知識と経験に基づき、聞き手に“When you have a bad day (or several), you need to recognize that it is just that—a temporary bad patch”（あなたにとって、嫌な1日や日々であるときには、それは文字通り単なる「一時的な嫌な時期」に過ぎないのだということを認識する必要があります）と、X {is / are} just that: Y 構文を用いて教示している。

- (41) When you have a bad day (or several), you need to recognize that it is just that—a temporary bad patch. Realize that you will not be able to do the same things on those days as you can on your good days and be realistic. (R. M. Rapee, *Overcoming Shyness and Social Phobia*)

(あなたにとって、嫌な1日や日々であるときには、それは文字通り単なる「一時的な嫌な時期」に過ぎないのだということを認識する必要があります。よい日にて

きると同じことをすることができないのだと思って、現実的になりましょう。)

また、X {is / are} just that: Y 構文は範囲の限定を表す副詞 just を伴って発話されることに特徴がある。X {is / are} just that: Y 構文の just は、that が指し示す表現のものに限定する働きがあり、「X は文字通り単なる Y に過ぎないのであり、それ以外の何ものでもない」という話し手の意識を反映する。裏を返せば、X {is / are} just that: Y 構文の話し手の念頭には、X という表現から誤解されうる事柄が、すでに想定されている場合もある。そのため、実際の用例を観察すると、“X {is / are} just that”の直後、あるいは“X {is / are} just that: Y”の Y の直後に、しばしば予想される誤りが打ち消される事例が確認できる。(42a)では話し手が“Thoughts are just that” (意見は文字通り単なる意見に過ぎないのだ) と伝えた直後に“not facts, and not true” (事実ではないし、真実でもない) と追記し、想定される誤解を打ち消している。(42b)でも話し手が“The trade scenarios are just that – scenarios” (選手のトレードのシナリオは文字通り単なる「シナリオ」に過ぎないのだ) と伝達した直後に“not facts” (事実ではない) と追記し、予想される誤解を否定している。

- (42) a. Thoughts are just that — not facts, and not true. (A. Ardagh, *The Translucent Revolution*)  
(意見は文字通り単なる意見に過ぎないのであり、事実ではないし、真実でもないのである。)
- b. The trade scenarios are just that - scenarios, not facts - and are based on no kind of inside info. (*The Philadelphia Inquirer*, January 27, 2022)  
(選手のトレードのシナリオは文字通り単なる「シナリオ」に過ぎず、事実ではないし、内部情報の類にも基づいていないのだ。)

次に、X {is / are} just that: Y 構文が、聞き手の心に銘記すべき情報、記憶にとどめておかなければならない情報を提示する用例を挙げる。(43a-b)では記憶にとどめておかなければならない重要なことは、X {is / are} just that: Y 構文が表す情報であると聞き手に伝えられている。

- (43) a. The most important thing to remember about assumptions is that they are just that—assumptions, not facts.  
(M. Linehan, *Cognitive-behavioral Treatment of Borderline Personality Disorder*)  
(憶測について覚えておくべき最も重要なことは、それらは文字通り単なる「憶測」に過ぎず、事実ではないのだということである。)

- b. While it is certainly important to discuss these two very likely scenarios for the future of the university, it is equally important to remember that they are just that: scenarios.

(S. Inayatullah, J. Gidley, *The University in Transformation*)

(大学の将来の可能性が非常に高いこれら2つのシナリオについて議論することは確かに重要ではあるが、それと同時に覚えておかなければならない重要なことはそれらが文字通り単なる「シナリオ」に過ぎないのだということである。)

また、上記(43a-b)の動詞 remember 以外にも、次例が示すように understand、remind、realize、forget などの認識動詞と共に、心に銘記すべきこと、理解しなければならないこと、忘れてはならないこととして X {is / are} just that: Y 構文の内容が提示されている。たとえば、(44a)では“a game, win or lose, is just that — a game” (勝とうが負けようが、試合は文字通り単なる「試合」に過ぎないのだ) ということの子供たちが「理解しなければならぬし(=“must understand”」、親も「常に心に留めておかなければならぬ(“have to constantly remind yourself of this”)」と述べられている。(44b)では“moods are just that—moods” (気分は文字通り単なる「気分」に過ぎないのだ) ということが「認識しなければならない最も重要なこと(“The first thing to realize”)」と説明されている。

- (44) a. Children must understand that a game, win or lose, is just that — a game. As a parent, you may also have to constantly remind yourself of this.

(The National Alliance for Youth Sports, *A Parent's Guide to Baseball & Softball*)

(勝とうが負けようが、試合は文字通り単なる「試合」に過ぎないのだということの子供たちは理解しなければなりません。親として、皆さんもこのことを常に心に留めておかなければならないでしょう。)

- b. The first thing to realize is that moods are just that—moods—and they will pass.

(S. Arterburn, P. Meier, F. Minirth, *Mastering Your Moods*)

(認識しなければならない最も重要なことは、気分は文字通り単なる「気分」に過ぎないのであって、やがて変わるものだということです。)

- c. What you must remind yourself is that other people's version of “reality” is just that—their version.

(C. A. Leyba, *Girl Code*)

(あなたが心に留めておかなければならないことは、「現実」についての他の人たちの考えは単に「彼らの考え」に過ぎないのだということである。)

- d. But, as with any wild animal, anyone who works with them should never forget that they are just that — a wild animal. As such, sharks bring with them an element of unpredictability.

(R. Elliott, *Shark Man*)

(しかし、どんな野生動物とも同様に、野生動物はまさに文字通り「野生動物」なのだということをサメと働く者はだれでも忘れてはならない。そのような野生動物として、サメにはいくばくかの行動が読めないところがあるのである。)

一方、X {is / are} just that: Y 構文には、聞き手が認識していないと思われる事柄、気づいてないと考えられる事柄を聞き手の意識に上らせる機能があることも確認できる。(45a-b)は“What {we / they} don’t realize is” ( {私たち／彼ら} が気づいていないのは) の that 補文に X {is / are} just that: Y 構文が生じている。

(45) a. What we don’t realize is that our temporary fixes are just that: temporary.

(D. Morrison, *In Praise of the Crone*)

(私たちが気づいていないのは、一時しのぎは文字通り単に「一時的」に過ぎないのだということである。)

b. What they don’t realize is that bad behavior is just that.

(M. Nocentelli, *Open Door Closed Closet*)

(彼らが気づいていないのは、悪い振る舞いは文字通り単なる「悪い振る舞い」に過ぎないということである)

このように、X {is / are} just that: Y 構文は、聞き手の心に銘記すべき情報、記憶にとどめておかなければならない情報を提示する。そのため、聞き手に「X はまさに文字通り Y なのだということに気を付けなさい」、「X は文字通り単なる Y に過ぎないのだということをお心に留めておきなさい」と指示や助言を与える命令文中にしばしば生ずる点でも特徴的である。たとえば、(46a)では“always remember that they are just that—clues, and nothing more” (それらは文字通り単なる「手掛かり」に過ぎないのであって、それ以上のものではないことを常に覚えておきましょう) という命令文で、(46b)では“make sure it’s just that —reasonable” (それはただ文字通りの「手頃な」価格であるということに気を付けてください) という命令文で、(46c)でも“make sure it’s just that: an introduction” (それは文字通り単なる「入門書」に過ぎないということに気を付けてください) という命令文で X {is / are} just that: Y 構文が発話されている。いずれも話し手は remember や “make sure” を用いて「X はまさに文字通り Y なのである」、「X は文字通り単なる Y に過ぎないのである」といった内容に留意するように聞き手に指示している。

(46) a. Be careful to pick up on clues that help avoid misinterpretation, but always remember that they are just that—clues, and nothing more.

(A. Davidson, R. Davidson, *How Good Parents Raise Great Kids*)

(誤解を避けるのに役立つ手掛かりに気付くことを心がけましょう。でも、それらは文字通り単なる「手掛かり」に過ぎないのであって、それ以上のものではないことを常に覚えておきましょう。)

- b. Offer the lowest reasonable price but make sure it's just that — reasonable.

(D. Gray, P. Mitham, *Real Estate Investing for Canadians for Dummies*)

(最も安い手頃な価格を提示してください。しかし、それはただ文字通りの「手頃な」価格であるということに気を付けてください。)

- c. If this is your introduction to contemporary poetry, make sure it's just that: an introduction.

(A. Huey, W. T. Kaneko, *Poetry: A Writers' Guide and Anthology*)

(もしこの詩撰があなたにとって現代詩の入門書であるのであれば、それは文字通り単なる「入門書」に過ぎないということに気を付けてください。)

ここまで論じてきたように、X {is / are} just that: Y 構文は、認識されていない事実、気づかれていない重要な事実、見逃されている事実などを聞き手に披瀝したり、教示する場合にしばしば用いられる。そのため、聞き手には容易には知りがたい情報を談話に導入するときの表現、“the {truth / fact} is” (実は) を伴って、真相や事情を披瀝するような場面でも多用される。

- (47) a. This is true whether you suspect a new condition, or you don't trust a doctor's opinion. The truth is ... it is just that — an opinion. (K. McGath, *Let Them See*)

(あなたが新しい病気ではないかと疑おうと、医師の所見を信じまいと、このことは本当なのである。実は、医師の所見は文字通り単なる「所見」に過ぎないのである。)

- b. “They're only there to train and advise the Iraqi army, and the fact is it's just that — training and advising,” he said, dismissing fears that his proposal would lead to tens of thousands of additional U.S. troops locked in another bloody ground war.

(*The Washington Post*, April 14, 2015)

(「彼らはイラク軍を訓練し、助言するためにそこにいるだけなのです。実は、文字通り単なる「訓練と助言」に過ぎないので。」彼は自分の提案が別の血なまぐさい地上戦に巻き込まれる数万ものアメリカ軍の追加部隊を出すという恐怖心を捨てて言った。)

第二に、X {is / are} just that: Y 構文は、「Xはまさに文字通り Y なのである」、「Xは文



字通り単なる Y に過ぎないのである」と、X に関して聞き手に認識されていない事実、気づかれていない重要な事実、見逃されている事実を話し手が断言して伝える。このことから、X が原因で不安を抱える聞き手に、真相を伝えることで安心させる談話機能が派生する。そのため、X {is / are} just that: Y 構文は“rest assured”（安心する）などの表現としばしば共起する。たとえば、(48a)では“But right now it’s only that—a rumor. Rest assured that I will learn the truth and let you know.”（でも今のところ、それは文字通り単なる「うわさ」に過ぎません。真相がわかったら皆さんに知らせるので、安心してください。）と、真偽が不明な rumor（うわさ）が流布する中で、それがうわさの域を出ていないこと、真相が判明したら伝えるので安心してよい旨を先生が生徒たちに X {is / are} just that: Y 構文を用いて伝えていることがわかる。

(48) a. “I know we’re all stirred up about this rumor,” said the teacher. “But right now it’s only that—a rumor. Rest assured that I will learn the truth and let you know.”

(B. Hale, *Fuzzy Fights Back (Class Pets 4)*) (=8b)を再掲)

（「私たちは皆このうわさに掻き回されているんですよ。」と先生は言った。「でも今のところ、それは文字通り単なる「うわさ」に過ぎません。真相がわかったら皆さんに知らせるので、安心してください。」

b. So, you can rest assured that a ‘stage show’ is just that – a stage show.

(A. Eaton, *Words That Work*)

（だから、「ステージショー」は文字通り単なる「舞台で見せるショー」に過ぎないので安心してください。）

c. First of all, let me assure you that all the horror stories about helicopters are just that—stories.

(R. Padfield, *Learning to Fly Helicopters*, Second Edition)

（まず、ヘリコプターに関する恐ろしい話が文字通り単なる「話」に過ぎないことを保証します。）

本節では、X {is / are} just that: Y 構文が発揮する談話機能の諸相を検証した。

## 5. まとめと今後の課題

本研究では、従来の研究で論ぜられてはこなかった英語の X {is / are} just that: Y 構文の意味と機能を実証的に検証し、主に次の三点を明らかにした。

第一に、X {is / are} just that: Y 構文は文脈によって「X はまさに文字通り Y なのである」、「X は文字通り単なる Y に過ぎないのである」といった意味を表し、先行文脈中の語句が「文字通りのもの」、「語義通りのもの」、「その名の通りのもの」であることを伝える

こと、指示表現 **that** は先行する文脈中の事物を指示するのではなく、先行する表現そのものを指示することを主張した。

第二に、X {is / are} just that: Y 構文の Y には「文字通りのもの」として取り立てられる要素が生ずるが、先行文脈中の語句と同一の語句が現れるとは限らず派生形、類似表現も生ずること、さらにはしばしば当該の語句についての聞き手の理解を容易にするために豊かな情報量を担う表現も生ずること、後続談話の主題となるような表現も生じうることを明らかにした。

第三に、X {is / are} just that: Y 構文は、特定の専門分野に精通した立場の話し手が、聞き手に「X はまさに文字通り Y なのである」、「X は文字通り単なる Y に過ぎないのである」と聞き手に教示するような場面でしばしば発話されること、「X はまさに文字通り Y なのだということに気を付けなさい」、「X は文字通り単なる Y に過ぎないのだということを中心に留めておきなさい」と聞き手に指示や助言を与える場面、X が原因で不安を抱える聞き手に、安心させるために真相を伝えるような場面でもその機能を発揮することを説明した。

日本語を含めて、対応する東西の諸言語の同種の構文との比較対照は今後の研究課題である。

## 参考文献

Lee, David A. (1991) Categories in the Description of *Just*. *Lingua* 83: 1, 43-66.

Otake, Yoshio (大竹芳夫) (2002) “Semantics and Functions of the *It Is That*-Construction and the Japanese *No Da*-Construction,” *MIT Working Papers in Linguistics* 43, 143-157.

大竹芳夫 (2009) 『「(の)だ」に対応する英語の構文』東京：くろしお出版。

大竹芳夫 (2016) 『談話のことば1 文をつなぐ』内田聖二・八木克正・安井泉 (編) (<シリーズ>英文法を解き明かす：現代英語の文法と語法 第3巻), 東京：研究社。

大竹芳夫 (2018) 「It is just that 節構文に観察される発話休止と情報補完」, 西岡宣明・福田稔他 (編) 『ことばを編む』170-178. 東京：開拓社。